



みぬまニュース

「見沼ふれあい農園づくり」9月11日(土)：第1日 子ども24名を含む85名で秋野菜の種蒔き

9月11日(土) 午前、暦の上では秋ですが、真夏日でした。幼児・小学生24名を含む85名が集合時刻の10時30分までにやってきました。埼玉県から土地水政策課と水環境課の職員が4名応援に駆けつけてくれました。場所は、東方に国昌寺、西方に氷川女体神社という見沼たんぼど真ん中の緑区見沼の埼玉県公有地です。

スタッフが既に除草から肥料やり畝作りまで終えたところで、見沼の土に親しむ県民参加の秋野菜づくりがスタートしました。第1日は種蒔きです。

小松菜・聖護院大根・かぶ・大根を全員で蒔きました。3歳・5歳の幼児もみんな、若いお父さん・お母さんと一緒に熱心に種蒔きをやり遂げました。

第42回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』 9月19日(日)

炎暑の中、29名が見沼自然公園をスタートに見沼たんぼ北東部の見沼代用水東縁と加田屋川周辺を歩きました。4班編成で、NPO法人自然観察さいたまフレンドの自然観察指導員7名がガイドを務めました。

コースは暑さ対策を考えて、予定より短縮し、下記のように変更しました。

見沼自然公園……見沼代用水東縁……深井家長屋門……さぎ山記念公園……加田屋の田圃と土手……旧坂東家住宅見沼くらしっく館(午前半日・6km)

みなさんの興味を惹いたのは、人の暮らしと深い関わりのある植物と絶滅危惧種の動植物でした。深井家周辺では葉書の語源となった「タラヨウ」と柿渋をとる「マメガキ」の樹木。田圃や湿地では絶滅危惧種の小動物「メダカ」と「トウキョウダルマガエル」、絶滅危惧種の野草「ミズワラビ」と「キクモ」と「タコノアシ」。道端では大豆の原種の野草「ツルマメ」。(小野 達二)

農あるまち宮代を歩く 9月25日(土) 農地再生の「新しい村」を訪ねて

東武動物公園駅西口近くの進修館(コミュニティセンター) 前広場で始の集いを行い、「新しい村」に向っ

た。台風の影響で荒れた天気という気象情報が災いして、参加者は17名に止まった。

途中、木造建築の町役場や竜宮城のような笠原小学校のユニークな建物に出会った。

やがて青々とした広大な田圃に出ると、そこが「新しい村」の市民農園だ。そこで、畦道を歩いて湿地性の野草を観察した。良好な自然環境のバロメータとなる絶滅危惧種が何と10指を数えた。見沼たんぼでは見られないアイナエ・ヒメナエ・ミズニラ・ミズマツバがあった。農園センターとも言える農の家、さらに森の市場 結(ゆい)に入った。そこで昼食休憩。市場は農業者・消費者・商人を結ぶ宮代の農産物特売所だ。その後、山崎山(さいたま緑のトラスト第5号地)から、ほっつけ田(東京の小学校の田圃が主体)に回り、「新しい村」を一巡したところで、駅に戻った。

市民と行政が協働した農あるまちづくりを実地に見て歩き、学ぶこと大だった。(小野達二)

見沼たんぼの四季 『見沼の秋』

「見沼たんぼ」というけれど、たんぼなんてないじゃないか、という笑えない笑い話も聞くほど、たんぼは年々減少していますが、まだこんな風景も見られます。稲刈りすると、急に隠れ家を失った虫やカエルが大慌て。あっちにぴよんぴよん、こっちにぴよんぴよん。

この機を待っていましたとばかりに鳥たちがやってきて、こんなふうにコンバインとサギのショットが見られたりもします。加田屋、大谷、片柳、見山、上山口などには、まだそれなりにたんぼが残っています。それぞれに、それぞれの稲刈り風景があります。あなたも見つけてみてください。(高橋)



稲刈り



コンバインの周りに飛んできたサギ

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

盛大に行われた「中山道まつり」

「2010中山道まつり」は、8月1日(午後5時～9時)、8月2日(午後5時～10時)の両日にわたって、大宮駅東口にて行われた。メインは2日で、幾種もの催し物が色々な会場で行われ中山道、中央通り、住吉通り、銀座通り等では山車、神輿、阿波踊り等のパレードが繰り広げられ、また、駅前イベント、民謡輪おどり、和太鼓・・・等の催し物は中央通りで披露された。

それぞれの道路は、祭りの行われる時間帯には交通規制が敷かれ、バスやタクシーの乗降場所も臨時の場所に移され、東口周辺は祭り一色の雰囲気包まれてしまった。午後5時を過ぎると各催し物は開始され、沿道には見物客の列が2重にも3重にもと幾列も出来て行った。

陽が沈み、祭り提灯の燈が一層明るさを増す頃になると、山車の奏でる笛や太鼓の音、神輿を担ぐ掛け声・・・等々、一段と勢いを増し、祭りのムードを一気に盛り上げて行くのだった。多くの観光客もこうした雰囲気に飲み込まれてしまい、アッチでもコッチでも一緒になって「ワッショイ、ソーレ・・・」と声を張り上げ応援し、祭りの勢いを加速させて行く。

和太鼓の演奏などは太鼓の音があちこちに反響し合い大きな地響きとなって伝わって来る。迫力満点だ。阿波踊りの幾つもの「連」が通



御輿を担ぐ人々

りかかるとお揃いの「すげ傘」や「浴衣」が、三味や笛の音に合わせて路上で波打ち、その艶やかさといったら、言葉の表現を失うほどである。ライトに照らされた演技者の顔からは大粒の汗が流れ落ち、身に付けた祭り衣装は上から下まで汗でびしょりになっている。外国から訪れて来た観光客の姿もあちこちに見られ、この賑わいに青い目をさらに大きく開けて感激している。

夏の夜空の下で、中山道まつりは益々勢いを増し、観光客のどの人も祭りの中に吸い込まれ、祭りに夢中になって行くのだった。暑さなどはすっかり吹き飛んでしまい、盛大な祭りの展開する東口周辺であった。

(召田紀雄)

高層ビルとたんぼの風景

9月、見沼たんぼでは一斉に稲穂が実ります。昔のように金色の稲穂の海が広がる風景が見られる場所は少なくなりましたが、いまでも一面の水田風景が残っている場所がたくさんあります。

そのうちのひとつ、上山口新田は、新都心の高層ビル群と水田が広がる風景が一望に見られる場所として、とても有名です。都市と農地が近接している見沼たんぼの特徴を表す風景として、色々なところで紹介されていますので、皆さんも見に行かれたり、写真などで一度はご覧になったことがあるのではないのでしょうか。



9月の上山口新田

この風景は、都市と自然の対比の風景として見られることもあると思います。確かにその通りであると思いますが、一方で、高層ビル群も一面の水田も人が創り出した風景であるということもできます。

これほどの広さの水田をまとめて耕作し、高い収穫量が得られるようになるまで、人々が様々な工夫と挑戦、絶え間ない努力を繰り返してきたことは想像に難くありません。

徳川吉宗の名により、井沢弥惣兵衛いざわ や そべ えためなが為永が見沼代用水を引き、見沼たんぼの干拓に成功して、一面に水田が広がった頃には、人々には新たに人が創り出した風景として、力強く感じられたのではないのでしょうか。

ところで、私たちがこんなに素晴らしい風景を見られるのは過去の人々の努力だけでなく、現在の農家さんのおかげであることを忘れてはいけません。見沼たんぼだけでなく、日本の美しい風景の多くは、代々農家を営んできた人々によって支えられてきたことができるのではないのでしょうか。

農業はもちろん生産が目的ではありますが、日本の文化や生活の面において、それだけではない重要な意味を持っているのです。(林)

見沼たんぼくらぶ事務局 NPO 法人自然観察さいたまフレンドが

「地域環境美化功労者」として環境大臣表彰を受けました！

見沼たんぼくらぶの参画市民団体であり、現在、事務局として、運営面で中心的な役割を担っているNPO法人自然観察さいたまフレンド（小野達二代表理事）が、今年の6月7日に環境大臣表彰式に出席し、「地域環境美化功労者」として表彰されました。

環境省では、昭和50年代から、地環境保全、地域環境保全及び地域環境美化に関し、顕著な功績があった者（団体）に対して、その功績をたたえるため、毎年度、環境大臣による表彰を行っています。

NPO法人自然観察さいたまフレンドは、平成3年2月の設立後、現在まで19年間にわたって、見沼たんぼを含む荒川左岸エリアにおいて、水環境調査、生物調査、自然観察、環境学習活動を実施しており、これらの功績が高く評価され、今回の環境大臣表彰が授与されました。

NPO法人自然観察さいたまフレンドは、見沼たんぼくらぶにおいては、毎年、自然観察ハイキングなどのイベントを実施し、活動を牽引してきましたが、平成20年度からは、埼玉県土地水政策課から事務局を引き継ぎ、会員の入退会の手続きや、運営会議のとりまとめ、イベントの企画運営などの様々な面で、見沼たんぼくらぶの運営を支えています。

また、見沼たんぼくらぶでは、NPO法人自然観

察さいたまフレンドが指導員となっている自然観察ハイキングを現在も継続しており、次回で第43回となっています。この他にも下記に紹介するようにNPO法人自然観察さいたまフレンドが主催する自然観察会などのイベントが年間30回程度開催されていますので、身近な自然に関心のある方は参加されてみてはいかがでしょうか。

最後となりましたが、NPO法人自然観察さいたまフレンドの皆様、このたびは本当におめでとうございます。見沼たんぼくらぶでは、今後も参画団体をはじめとして、見沼たんぼの保全に取り組む全ての団体の皆様のご活躍を応援しています！

（見沼たんぼくらぶ広報担当：林）



自然観察会

NPO 法人自然観察さいたまフレンド関連イベント情報

第19回見沼の自然ふれあいウォーク

日 時：10月31日（日）13時～16時
集 合 地：合併記念見沼公園管理棟
主 催：NPO法人自然観察さいたまフレンド
内 容：野の花はじめ秋の自然を楽しむ
申 込 み：当日、集合地で12時30分から受付
参 加 費：¥500（中学生以下は無料）
問 合 せ：TEL（048）683-1764・小野
交 通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点すぐ南側12時発 or 12時30分発（約10分乗車）

第20回見沼の自然ふれあいウォーク

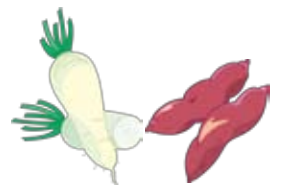
日 時：12月5日（日）13時～16時
集 合 地：合併記念見沼公園管理棟
主 催：NPO法人自然観察さいたまフレンド
内 容：水鳥はじめ冬の自然を楽しむ
申 込 み：当日、集合地で12時30分から受付
参 加 費：¥500（中学生以下は無料）
問 合 せ：TEL（048）683-1764・小野
交 通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点すぐ南側12時発 or 12時30分発（約10分乗車）

第7回さいたまみどりの祭典

日 時：10月16日（土）9時30分～16時
17日（日）9時30分～15時30分
会 場：市民の森・見沼グリーンセンター
主 催：さいたまみどりの祭典実行委員会
さいたま市
内 容：『みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを
守り育てましょう！』というスローガンの下に
市民団体・学校・行政が協働して多様な催物を
展開します。＜入退場自由＞
問 合 せ：さいたまみどり推進課
TEL（048）829-1413
交 通：JR宇都宮線土呂駅東口徒歩7分



見沼たんぼの農家さんのお話



若手農家が指導する体験農園

見沼自然公園の近く(片柳東)に、栽培指導付きの体験農園があるのを知っていますか?

指導してくれるのは、若手農業者の若谷真人さん。体験農園を始めたきっかけは、直売所でのお客さんの反応から。野菜の旬、料理の仕方、育ち、実り、害虫、栽培環境、などを体験することによって野菜への理解や親しみを深めてもらえたらという思いからでした。最初は若谷さんもその一員である若手農業者の集まりの

4Hクラブで始めたのですが、その後は個人で続けて通算で8年ほどになるということです。栽培計画と苗などの準備、月2回程度の講習会を行



体験農園の圃場と若谷さん

います。通常の維持管理は個人に任せるため人によって収穫に差が出ますが、それがまたいい経験になるようです。野菜作りのおもしろさ、奥深さを体験すると病みつきになってしまう方が多いようですが、37組の参加者のうち約半数はリピーターとのことでした。そしてまた、主宰者の若谷さん自身も参加者の方々との交流からいろいろと気付かされることが多いので、とても勉強になるといいます。手入れの行き届いた圃場からは、区画ごとにそれぞれの汗と想いと収穫の笑顔が感じられるようでした。

若谷さんは新しい種類の野菜や料理にも幅広い知識や関心を持っておられて、いろいろな野菜作りに取り組んでいますが、実際に出荷してみると、珍しい野菜に興味を持って手にしてくれるお客さんは少ない、というお話は意外でした。若谷さんの野菜のラベルには調理方法のヒントなども書き込んであります。市場や直売所、市内スーパーなどに出荷しているそうなので、みなさんもどこかで見かけたら、ぜひ試してみてください。きっと新しいおいしさを発見できると思いますよ。

若谷さんはまた、代々続く「慈姑(クワイ)」農家の後継ぎでもあります。

埼玉は広島と並ぶ、クワイの一大産地なのです。東京はもちろんですが、関西地方にも多く出荷していて、

京・大阪のお正月料理を支えているのに、実は埼玉産のクワイも一役買っているのです。でも、クワイ農家は年々減って、今では若谷さんの高畑地区でも7軒だけになってしまいました。クワイは田んぼで栽培しますが、11月下旬から年末にかけてが収穫のピーク。氷が張ることもある冬の田んぼでの作業の厳しさは想像以上だと思えますが、真夏の時期にも「葉欠き」といって、根の栄養がクワイにいきわたるように、また風通しをよくして病気の発生を少なくするために、葉を剪定するきつい作業があります。クワイの栽培は機械化がむずかしく、そのほとんどが今でも手作業によっています。そして収穫できるのは年に一回だけ。だから、一人の人がその生涯でクワイを作ってみることができるのは、せい

ぜい50回そこそこくらい。けれど代々つくり続けている農家ではその智慧や技術が蓄積されていて、その上に今のクワイの栽培があるのだと、若谷さんはいいます。



クワイの赤ちゃん

農家の跡取り、という環境を素直に受け止めて、子供のころから特に迷いもなく農業を継いだという若谷さん。語る言葉も物腰も実に自然体で、伝えられてきた土台をしっかりと継承しながらも、現代という時代の中での農業のあり方をさまざまに試みていく姿に感銘を受けました。

最後に、若谷さんから教えてもらった一味違うクワイ料理をご紹介します。この年末、クワイを見つけたら試してみませんか?

- ・アルミホイルで包んで丸焼きに。塩、バター、マヨネーズなどをかけて。
- ・すりおろした慈姑に同量の水を加え、弱火で混ぜながら煮ると粘りがでる。これを油をひいたフライパンで焼いて、お好みの味付けで。

栽培指導つき体験型農園

見沼区片柳東(体験農園会場)

携帯:090-2213-7794(若谷)

開園期間:3月~12月

参加費:35,000円(種苗・肥料などの資材代込)

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「秋の深作川遊水池」
(さいたま市 見沼区)

深作川遊水池は深作川の右岸にあり、古くは深作沼あるいは鶴巻沼ともいわれて、付近は鷹場として保護されてきたところ。深作川は深作地区の灌漑排水として機能してきた。

為永翁の見沼代用水開削により新田開墾が進められたが、沼の中央部は深いため完全な排水ができず、今なお遊水池として残り、深作川の洪水対策用として機能している。

左に見えるのは春野の「アーバンみらい東大宮団地」。池は近代的な建物のそばにありながら、釣り人の姿も見られる静寂の気が漂う別天地。



「刈り入れを終えて」
(さいたま市 見沼区加田屋新田)

ハザ掛け・稲ボッチは、NPO法人で島田由美子さん主宰の「見沼ファーム21」の会員家族やボランティアの人たちが、篤農家の指導・応援を得て製作したもの。子供たちは熱心に、また興味を持って田植えから草取り、紫山子作りから刈り入れまで取り組んできた。

ヒコバエを啄ばむ白鷺も見られたが、このような天日乾燥は機械乾燥に替わりつつあり、時代の変化とはいえ出来れば残しておきたい風景である。

見沼代用水・水彩スケッチ展 八木一郎 個展

日 時：10月24日(日)～31日(日) 10時～17時

* ただし、25日(月)は休館日。31日(日)は16時まで

会 場：さいたま市民会館うらわ

交 通：浦和駅西口徒歩10分(ロイヤルホテル西側)

見沼たんぼの仲間たち No. 17

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

NPO 法人 見沼ホタル保存会

見沼たんぼにホタルを飛ばそう！幼虫飼育は根気と辛抱

ホタルとの出会い

11年前、還暦で定年を迎えて地域のために何かお役に立つことをしたいと思っていた時、自治会の会長様から副会長を受けてくれないかとの話がありました。何日か考えた後、引き受けることに決めました。

前後してホタルとの出会いがありました。川口の駅前で鈴虫をあげますの広告を見て、鈴虫を飼育してみようと場所に行きました。配布しているテントが川口ホタル保存会と書いてありましたので、係員にホタルはどこで飼育しているかをお聞きしましたところ、いろいろ丁寧にお話を戴きました。越谷のホタルを育てる会が出羽公民館でホタルの育て方研修会を開いており、受講すると30匹の幼虫が頂けるということで、早速出席して幼虫を戴いてきました。

飼育してみると研修会で習った他に疑問点が出て本屋に行きホタルや昆虫の本を買い求め、頑張って飼育した結果、翌年十数匹のホタルが誕生しました。近所の人に声をかけ庭でホタルを見て頂きました所、子供も大人も「本物のホタルは初めて見た」と大感激をしてくれました。

ホタル保存会の設立

そこで 見沼たんぼのいたるところでホタルを飛ばし大勢の人にホタルを自由に観賞して喜んでもらおうと決心しました、2001年見沼ホタル保存会を設立し、7名の応援者を募りスタート、翌年ホタルの育て方勉強会と幼虫の配布会を実施し、62名の里親が誕生しました。

ホタルの幼虫の放流

これで幼虫の飼育者が確保できましたので、今度は幼虫を放流する場所探しが始まりました。1号池は私有地をお借りして養殖池を作り放流(昨年売却契約をしたことで返却、大変残念でした)。2号池は浦和くらしの博物館民家園に放流。池の清掃活動には浦和中ロータリークラブや地域の応援隊で100名ほど集まり楽しく行いました。放流会は浦和明の星幼稚園児120名が



活動記念碑完成（浦和くらしの博物館民家園）

参加して実施しました。3号池は三室市立病院北側見沼代用水西縁に見沼代用水土地改良区の応援で完成し、毎年大古里育ちの森幼稚園児60名で放流会を実施しております。4号池は七里総合公園に独立行政法人水資源機構の応援で完成、毎年東宮下小学校生徒60名で放流会を実施しております。



幼虫放流会（大古里育ちの森幼稚園児）

今後も見沼たんぼに放流出来る場所を探し、放流を続けてまいりますので皆様のご理解ご協力を宜しく願います。

団体名 NPO 法人 見沼ホタル保存会
理事長 福本 美敬

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

① 特別展「見沼のうつりかわり」

期間：10月9日(土)～12月12日(日)
内容：見沼んぼの役割や風景の変化に注目し、見沼と人々との関係がどのように変わってきたのかをご紹介します。

2 三室地区定例探鳥会

日時：10月17日、11月21日、12月19日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分 集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
主催：日本野鳥の会埼玉県支部
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

3 教育普及事業

① 特別展開連講座「見沼の開発史」

日時：11月28日(日)14時～15時30分(13時開場) 入場無料
講師：松浦茂樹先生(東洋大学国際地域学部教授)
内容：見沼にどのように人の手が加わり変化してきたか、またその理由や社会的な背景はどのようなものであったのかを解説します。
会場：浦和コミュニティセンター(浦和駅東口駅前3階)第15集会室
申込み：浦和博物館へ電話(048-874-3960)または直接
受付開始：11月5日(金)午前9時

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 公開講座

① 秋の自然観察会

日時：10月31日(日)9:00～12:00
内容：見沼代用水東縁周辺を歩いて見学します。詳細は民家園へ。
対象・人数：どなたでも、30人 参加費：無料

② 水引細工「水引でアクセサリを作る」

日時：11月14日(日)10:00～12:00
内容：水引で吉祥文様のアクセサリを作ります。
対象・人数：中学生以上、30人 参加費：500円

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

① 趣味・教養講座(定員あり/無料)

- | | | |
|----------------------|---|-----|
| ①滑石で作る勾玉 | 10月5日(火)14時～16時 | 10名 |
| ②茶そば打ち講座 | 10月6日(水)10時～13時 | 8名 |
| ③滑石で作るネックレス | 10月7日(木)14時～16時 | 10名 |
| ④木箱に千代紙を貼る | 10月8日(金)14時～15時 | 10名 |
| ⑤玄そば打ち講座 | 10月13日(水)10時～13時 | 8名 |
| ⑥木箱に雲龍紙を貼る | 10月15日(金)14時～15時 | 10名 |
| ⑦尺八基礎講座(全6回) | 10月16・23・30日、11月6・13・20日
13時30分～15時30分(定員5名) | |
| ⑧紅花そば講座 | 10月20日(水)10時～13時 | 8名 |
| ⑨木箱に友禅和紙を貼る | 10月21日(木)14時～15時 | 10名 |
| ⑩木箱に韓紙を貼る | 10月22日(金)14時～15時 | 10名 |
| ⑪土粘土で文鎮を作ろう! | 10月24日(日)14時～15時半 | 10名 |
| ⑫土粘土のペーパーウエイト | 10月26日(火)14時～15時半 | 10名 |
| ⑬郷土をあるく「氷川参道・中山道を歩く」 | 10月27日(水)9時～12時 | 20名 |
| ⑭記帳に怖気ない筆ペン講座 | 10月28日(木)14時～15時半 | 10名 |
| ⑮祝儀袋の書き方講座 | 10月29日(金)14時～15時半 | 10名 |
| ⑯土粘土で何かを作ろう! | 10月31日(日)14時～15時半 | 10名 |
| ⑰津軽そば打ち講座 | 11月10日(水)10時～13時 | 8名 |
| ⑱かな文字落款を作る | 11月11日(木)14時～16時 | 10名 |
| ⑲オープン粘土で食器を作ろう! | 11月12日(金)14時～16時 | 10名 |
| ⑳オープン粘土でスボールを作ろう! | 11月16日(火)14時～16時 | 10名 |
| 21 奥会津そば打ち講座 | 11月17日(水)10時～13時 | 8名 |
| 22 はじめての落款作り | 11月18日(木)14時～16時 | 10名 |
| 23 年賀用落款を作る | 11月27日(土)14時～16時 | 10名 |
| 24 郡上そば打ち講座 | 12月1日(水)10時～13時 | 8名 |

- | | | |
|------------------------|-------------------|-----|
| 25 日向そば打ち講座 | 12月8日(水)10時～13時 | 8名 |
| 26 オリジナル箸作り | 12月9日(木)14時～16時 | 10名 |
| 27 桜材の箸作り | 12月10日(金)14時～16時 | 10名 |
| 28 正月用飾り「ミニ凧作り」 | 12月16日(木)14時～16時 | 10名 |
| 29 お年玉袋を作る | 12月21日(火)14時～15時半 | 10名 |
| 30 郷土をあるく「合併記念見沼公園を歩く」 | 12月22日(水)9時～12時 | 20名 |
| 31 グラビースのクリスマスライト | 12月22日(水)14時～16時 | 10名 |
| 32 祝儀袋を作る | 12月23日(祝)14時～15時半 | 10名 |

② 小学生対象講座(定員あり/無料)

- | | | |
|-----------|------------------|-----|
| A 手作り飛行機 | 12月11日(土)14時～16時 | 10名 |
| イ ゴム動力飛行機 | 12月18日(土)14時～16時 | 10名 |

③ 公開講座(定員なし/無料)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| A 食べるラー油作りの公開 | 10月1日(金)14時～15時 |
| B 満員御礼「秋のくらしっく寄席」 | 10月3日(日)13時～16時 |
| C 歌声喫茶 | 10月9日(土)13時～16時 |
| D 伝統的建造物の話 | 10月16日(土)14時～15時 |
| E 自然を学ぶ講座「見沼の自然」 | 10月17日(日)14時～15時半 |
| F 川柳講座 | 10月19日(火)14時～16時 |
| G 十三夜観月会「選句発表会」 | 10月20日(水)17時半～18時 |
| H 十三夜観月会「邦楽鑑賞会」 | 10月20日(水)18時～19時半 |
| I 民話鑑賞「秋風と語り部たちの集う声」 | 10月23日(土)13時半～15時半 |
| J 食育講座「亥の子の日豆おこわ作り」 | 11月9日(火)14時～15時 |
| K 近代建築の話 | 11月13日(土)14時～15時 |
| L 自然を学ぶ講座「見沼のむし」 | 11月21日(日)14時～15時半 |
| M 食育講座「呉汁作り」 | 11月23日(火)14時～15時 |
| N 年中行事「恵比寿講について」 | 11月25日(木)10時半～11時 |
| O 郷土を知る講座「日進の張子・達磨」 | 11月26日(金)14時～15時半 |
| P 食育講座「青首大根を干す」 | 11月28日(日)11時～12時 |
| Q 食育講座「寒餅作り」 | 12月17日(金)14時～15時 |
| R 年中行事「煤払いと正月飾り」 | 12月25日(土)9時～12時 |

④ 小学生対象公開講座(定員なし/無料)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| いろいろ端で聞きたいおはなし会 | 10月2日(土)14時～14時半 |
| 竹馬を習おう! *雨天中止 | 10月10日(日)14時～15時半 |
| ベーゴマを回そう! *雨天中止 | 10月11日(祝)14時～15時半 |
| いろいろ端で聞く秋のおはなし会 | 11月6日(土)14時～14時半 |
| いろいろ端で聞く雪のおはなし会 | 12月4日(土)14時～14時半 |

2 企画展示

- | | |
|--------|---------------------|
| 「呉須と藍」 | 10月5日(火)～11月14日(日) |
| 「象 嵌」 | 11月16日(火)～12月23日(祝) |
- ※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 第10回秋の盆栽展

期日：11月6日(土)～7日(日)10時～16時
会場：園芸植物園 花き集荷施設 内容：松柏、さつき盆栽の展示、
② 園芸相談等・盆栽実技講習会「材料は未定」

日時：11月7日(日)13時30分～15時
定員・費用：20人(先着順)800円(教材費) 持ち物：木ばさみ、針金切
申込：11月4日(木)の9時から電話で同センターへ

大宮第二・第三公園管理事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

- | | |
|------------|---------------------|
| 山野草の展示 | 10月29日(金)～10月31日(日) |
| 残したい見沼風景 | 11月2日(火)～11月7日(日) |
| 晩秋の山野草展 | 11月8日(月)～11月14日(日) |
| 厚年写真クラブ写真展 | 11月8日(月)～11月14日(日) |
| 押花作品展 | 11月16日(火)～11月28日(日) |

見沼たんぼくらのイベント案内

第75回見沼塾 『見沼の自然』

日時：10月17日(日) 14:00~15:30
場所：旧坂東家住宅見沼くらしっく館及び周辺の見沼たんぼ
内容：見沼たんぼの自然を観察しながら植物や昆虫の生態系について学びます。
申込み：不要(当日、見沼くらしっく館へ直接お越し下さい。)
参加費：無料
問合せ：TEL(048)688-3330(くらしっく館)

第76回見沼塾 『いろり端で聞く昔ばなし』

日時：10月24日(日) 10:00~11:30
場所：浦和くらしの博物館民家園(旧蓮見家住宅・旧野口家住宅)
内容：見沼にゆかりの昔ばなしの他に、楽器「リュート」との共演による民話を江戸時代の建物の中で行います。
申込み：10月5日(火)から電話で民家園へお申込み下さい。
定員：40人(先着順)
参加費：無料
問合せ：TEL(048)878-5025(民家園)

第77回見沼塾 『見沼のむし』

日時：11月21日(日) 14:00~15:30
場所：旧坂東家住宅見沼くらしっく館
内容：見沼たんぼに生息するムシについて、その生態を学びます。
申込み：不要(当日、見沼くらしっく館へ直接お越し下さい。)
参加費：無料
問合せ：TEL(048)688-3330(くらしっく館)

第78回見沼塾 『和風を作ってあげる』

日時：12月12日(日) 9:30~12:00
場所：浦和くらしの博物館民家園
内容：竹と和紙を用いて和風を作り、製作後は園内の広場で風上げをします。
申込み：12月5日(火)から電話で民家園へお申込み下さい。
定員：20人(先着順)
材料費：500円(予定)
問合せ：TEL(048)878-5025(民家園)

第1回見沼たんぼ清掃ボランティア

日時：11月7日(日) 10:00~12:00(雨天決行)
(受付 9:30~10:00)
場所：市民の森・見沼グリーンセンター
作業場所：見沼たんぼ芝川沿い(神明下橋~石橋)
申込み：10月14日(木)までに埼玉県ホームページ、又はハガキで「見沼たんぼ清掃ボランティア」と明記の上、住所、氏名を記入し、埼玉県土地水政策課へ
参加費：無料
問合せ：〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1
埼玉県土地水政策課(048)830-2192

第2回見沼たんぼふれあいウォーキング

日時：11月20日(土)(雨天決行)
(受付 9:30~10:00)
内容：見沼田圃周辺の決められたコース約6キロを時間内に踏破する。但し速さを競うものではない。
集合：午前9時JR武蔵野線「東浦和駅、駅前広場」
※受付は8時30分から。
解散：午後12時30分頃、浦和くらしの博物館民家園にて現地解散。
募集人員：50名(先着順)
コース：東浦和駅⇒大間木氷川神社⇒国道463⇒見沼代用水西縁⇒氷川女体神社⇒氷川下橋⇒新見沼大橋下⇒国道463⇒念仏橋⇒浦和くらしの博物館民家園
持ち物：雨具、防寒用衣類、飲み物および携帯食など
参加費：無料。参加者全員に主催側として、スポーツ保険に加入します。
申込み：10月30日(土)までに、往復はがきを使用して申し込む。はがきには、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を明記する。
申込み先：〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1
埼玉県企画財政部土地水政策課(048-830-2192)
※参加決定者にははがきにて連絡をします。

第2回見沼たんぼ斜面林の体験学習 『特別緑地保全地区大和田緑地公園』

日時：12月12日(日) 9:00~12:00
集合地：大宮体育館正門
内容：大宮体育館の南側に広がる見沼最大級の斜面林で雑木林や谷地を見学し、落葉かきなどを実習します。
申込み：当日、集合地で8時30分から受付
参加費：無料
持ち物：作業手袋、雨具
交通：東武野田線大和田駅下車徒歩15分。踏切を渡って大和田駅前通りを南下し、歩道のある道路を西に進むと、左側にあります。

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう！年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

(編集・発行) 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/